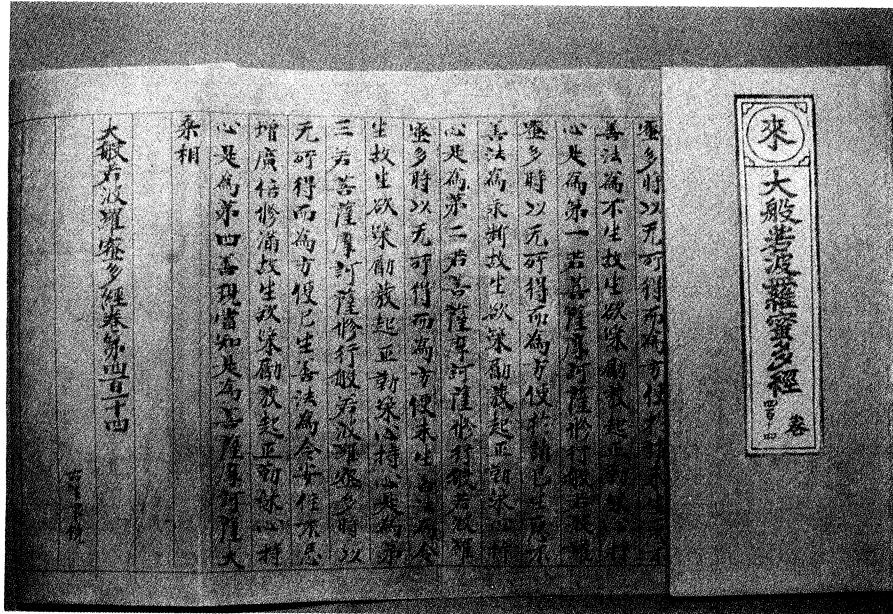


ふるさと探訪



県指定重要文化財（典籍）

大般若經 六百卷 付經櫃 六合

所在地 喜多方市慶徳町新宮字熊野2258番地
所有者 熊野神社

大般若經（大般若波羅密多教）全六百卷のうち、欠十
七卷、重複一卷で五八四卷が現存する。このうち卷第二
百までは、奥書によれば宝暦五年（一七五五）から同十
三年にかけて河沼郡・耶麻郡・大沼郡さらに若松城下・
金山谷・南山を含む会津郡など、広く会津諸郡の村々か
ら個人あるいは村中によつて寄進されたものである。そ
れらは同一の形式による版本で、折本の体裁も同じであ
る。（縦二十六・四センチメートル、横九・八センチメ
ートル、二十五字八行詰）

卷第二百一以下もまた折本で、その多くは版本である
が、写本七十卷・筆写部分を有するものの二卷が含まれて
いる。これらの表紙は、第二百までのそれとほぼ同時か
あるいはより新しい趣を呈するが、版本の印刷は古風を
帶び、それらの数卷には、「応永卅五年 戊申六月十八日
沙門令曼修覆之」などの奥書があり、写本には、「建武
三年丙子卯月十日 三位日俊卿筆」の奥書をもつものも
ある。

また六合の經櫃のうち、二合の内底には、「文龜四年
甲子五月吉日 大旦那築田右京亮行次」蓋裏には「寛保
三癸亥年二月四日 中條広泰繕焉都而六画(亟)破壊」、
また「宝曆五乙亥載七月吉日 塗寄進 上野利兵衛・川
口久工門」と記されたものがある。

以上、かつて、中世に存在した版本大般若經は、おそ
らく戦国期までに一定程度、写本を交えるものとなつて
いたのが、江戸中期ころまでには、一二六卷（新編会津
風土記）ほどとなり、宝曆のころに六百卷への整備をみ
たものかと推測される。卷第二百までの部分は時代的に
下るとはいえ、近世会津地方における庶民の信仰の実情
を示す好個の資料である。

「大般若經六百卷」は、これを収藏する經櫃を含めて
貴重な文化遺産である。